

# 天井埋込形4方向吹出 据付工事説明書 PJF012D004A

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。  
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。  
また、故障診断は、室内ユニットの接続銘板をご覧ください。  
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、【注意】、【警告】に区分してありますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に【警告】の欄にまとめて記載してあります。しかし、【注意】の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載してありますので、必ず守ってください。
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。この取扱説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書をお渡しいただくよう依頼してください。

## △警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても限界温度を超えない対策をする。限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏れて限界温度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを入れない。空気などが混入すると冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のもを使用する。既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。フレアナットの締め過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。感電、故障や動作不良の原因になります。

## △注意

- アース（接地）を確実に行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。
- 正しい容量のブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（閉閉器）・配線遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外には使用しない。針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・動植物、精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。保存物の品質低下などの原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
  - ・可燃性ガスの漏れる恐れのある所
  - ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリなど、機器に影響する物質の発生する所
  - ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
  - ・高周波を発生する機械を使用する所
  - ・海浜地区等塩分が多い所
  - ・煙突の煙がかかると
  - ・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
  - ・車両・船舶等移動するものへの設置
  - ・化粧品、特殊なスプレーを頻りに使用する所
  - ・積雪の多い所
  - ・標高1000m以上の所
 性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損傷が生じることがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。傷んだ状態で置くとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。溶接作業時に発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため極細の網をユニットの裏面に貼っておくと、スパッタの進入を防ぐことができます。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。不確実な場合、室内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管は硫黄系ガスなど、有害ガスの発生する排水溝には直接入れない。室内に有害ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試験運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。不完全な断熱施工を行うと配管が結露して、腐れなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいにするようお願いしてください。
- 製品の運搬は十分注意して行う。20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- フィルタをはずしたまま運転しない。内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水洗いしない。感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

## ①据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

### 付属品

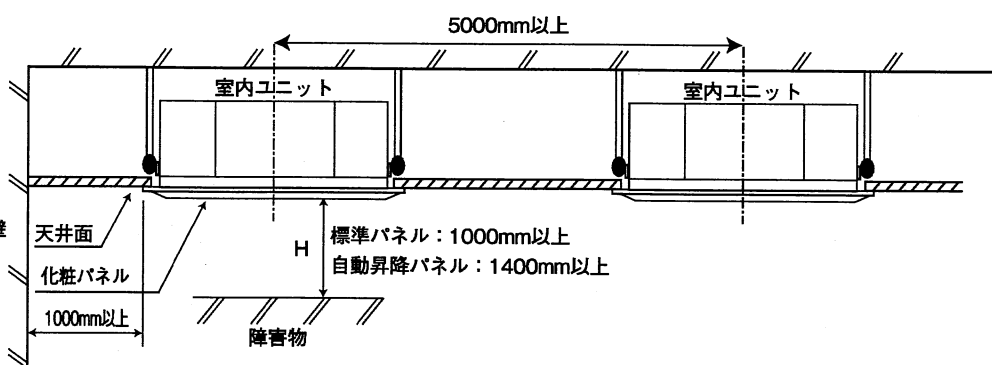
本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金 (M10)	レベルゲージ	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホース クランプ
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
ユニット吊下用	ユニット吊込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

## ②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
  - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。
  - ・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
  - ・ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態を運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
  - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります）
  - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
  - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
  - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
- ②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を5m以上離して設置してください。

### 室内ユニット据付スペース

- ユニットと壁、ユニットとユニット間等、間隔がとれない場合は、ショートサーキットしないことを確認してください。
- 据付高さは2.5m以上としてください。



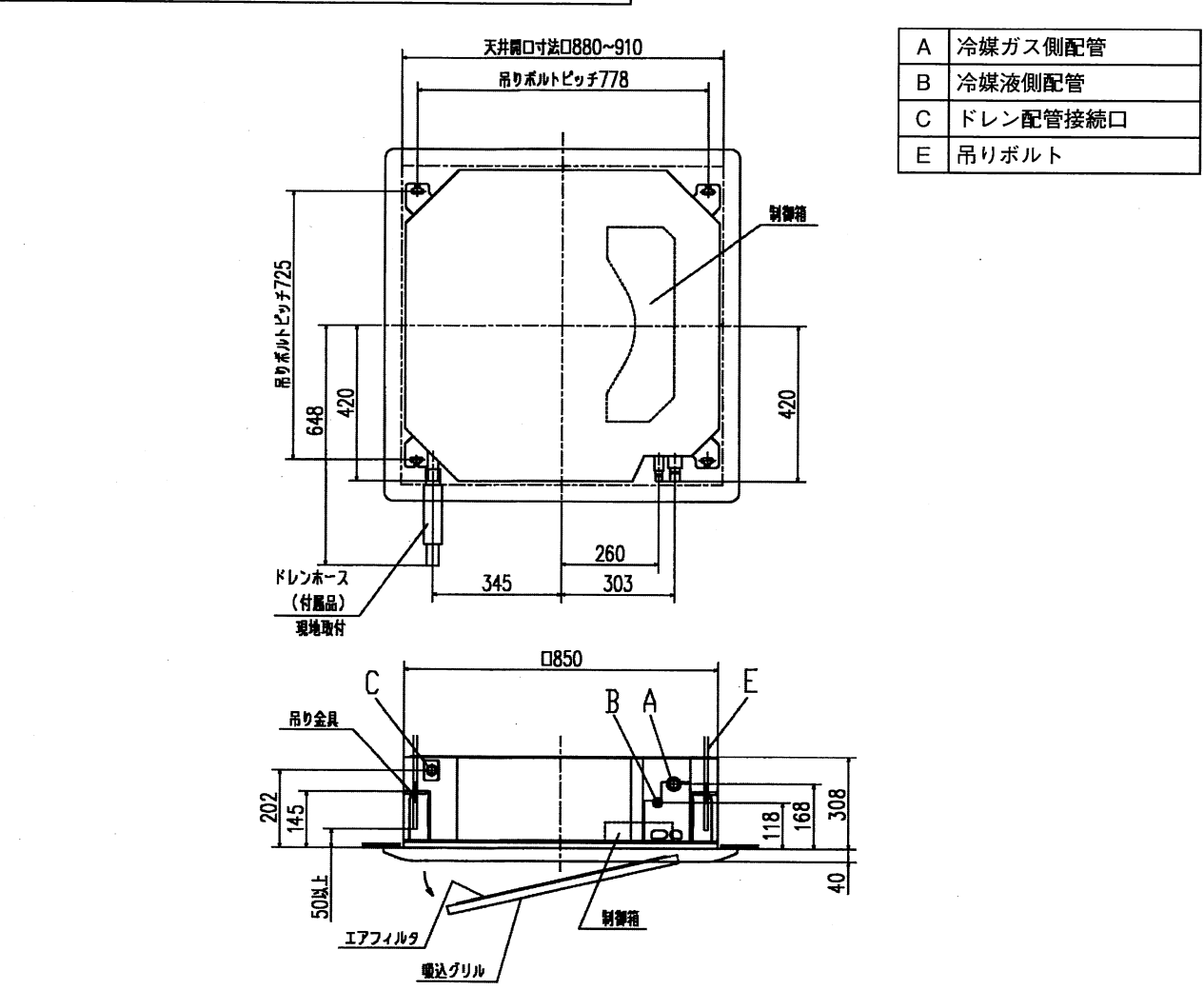
### 吹出パターンの設定

- 吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

## ③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- シムム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
  - ・吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレースを設置する。
  - ・強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
  - ・吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震プレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・パネ座金（M10 or M8）を4組現地に手配してください。

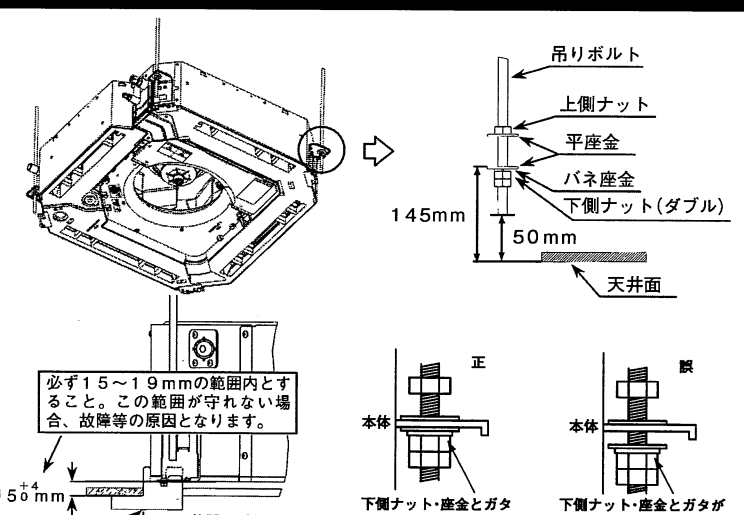
### 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



## ④室内ユニットの据付け

### 作業手順

1. 天井に□880～□910をあけてください。梱包用ダンボールケースの外周を参考に天井を開けてください。
2. 吊りボルト位置（725×778）を決めてください。
3. 吊りボルトは、4本使用し、1本当り500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4. 吊りボルト長さは、天井面より50mm程度としてください。吊りボルトの下側ナット4箇所は天井面から14.5mm程度に仮止めし、上側ナット4箇所はユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、ユニット本体を吊り込んでください。
5. ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージを吹出口にセットし、ユニット吊り込み高さを調整してください。高さ調整は、上側ナット4箇所を緩めた状態で、下側ナット4箇所を調整してください。ユニット吊り込み後、下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。



## ④ ユニット据付けのつづき

- ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締め付けてユニットを固定してください。



### ユニット据付け時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉が発生するおそれがあります。
- ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- 化粧パネルを据付け後、ユニット高さの微調整ができます。詳細は化粧パネルの据付け説明書をご覧ください。
- 化粧パネルと天井面、および化粧パネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
- 化粧パネルをしばらくの間取付けられない場合、またはユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、据付け用紙紙(梱包材天面ダンボール)を使用して、ユニット内へ埃を入れないための保護シートとしてください。

## ⑤ 冷媒配管

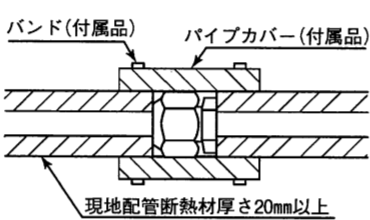
### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。冷媒R22で使用している既設配管を使用する場合は、下記点を注意してください。
  - ・フレアナットは製品に付属されているもの(JIS第2種)に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。
  - ・薄肉配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金無鉛銅管(C1220T, JIS H 3300)をご使用ください。また管の内外面は美観であり、使用上有毒な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉など(コンタミ)の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。R410A以外(R22など)の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともラップして直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

### 作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
※配管の曲げはできるだけ大きな半径で行い、曲げなおしを何回も行わないでください。また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。
  - ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
  - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けて右表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締めてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないとう結露し水漏れします。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

パイプ径	締付力 N・m
φ6.35	14~18
φ9.52	34~42
φ12.7	49~61
φ15.88	68~82
φ19.05	100~120



## ⑥ ドレン配管

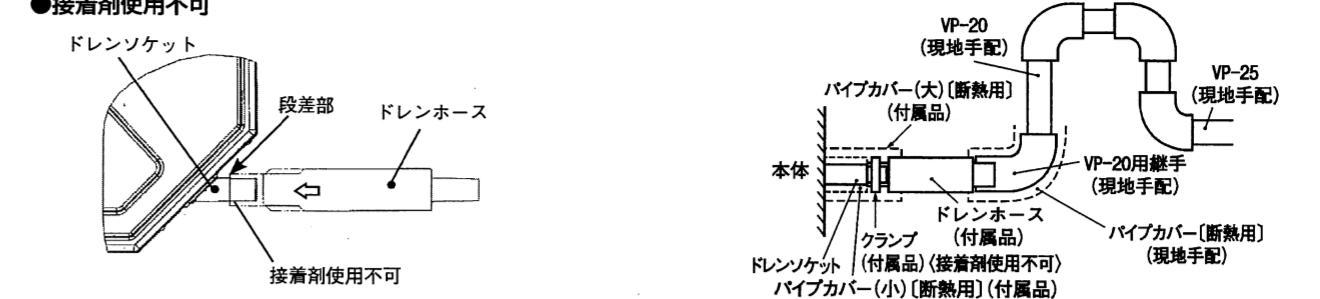
### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付け説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換機の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対設けしないでください。
- 運転時にドレン排水が確実に実行されていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

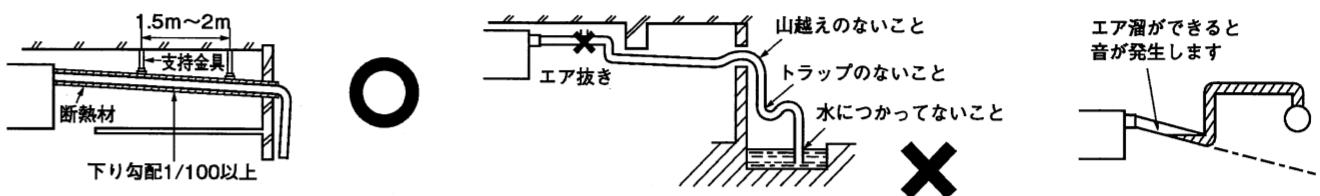
## ⑥ ドレン配管のつづき

### 作業手順

- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)を本体ドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締めてください。



- ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP-20用継手(現地手配)を接着・接続し、この継手に、VP-20(現地手配)を接着・接続してください。  
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-20を使用してください。  
●本体直近で立上げる部分はVP-20、横引き部分以降はVP-25以上を使用してください。  
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキシブルに力が加わった場合、フレキシブルが破損するおそれがあります。  
●ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至るおそれがあります。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。  
●ドレン配管を接続する際にユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。  
●エア抜きは絶対に設けしないでください。



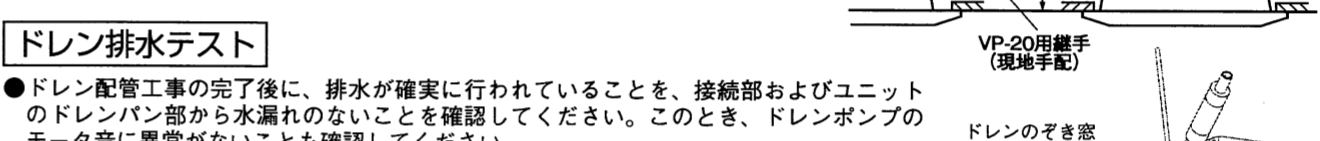
- 複数のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP-30以上を使用してください。



- ドレン配管の断熱施工を行ってください。  
●結露が発生し、水漏れをおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。  
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

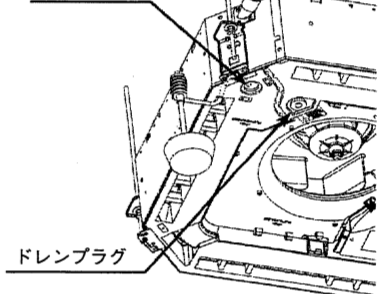
### ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より700mmまで高くすることができ、天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。



### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事後の完了後に、排水が確実に実行されていることを、接続部およびユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
  - 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
  - 新築の場合には天井を張る前に実施してください。
- 本体吹出部より給水ポンプなどを使用して、ドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約1000cc注入してください。
  - ドレン排水が確実に実行されること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。  
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。
  - 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。汚れが多い場合は、ドレンパンを取外し、ドレンパンを清掃してください。水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



## ⑥ ドレン配管のつづき

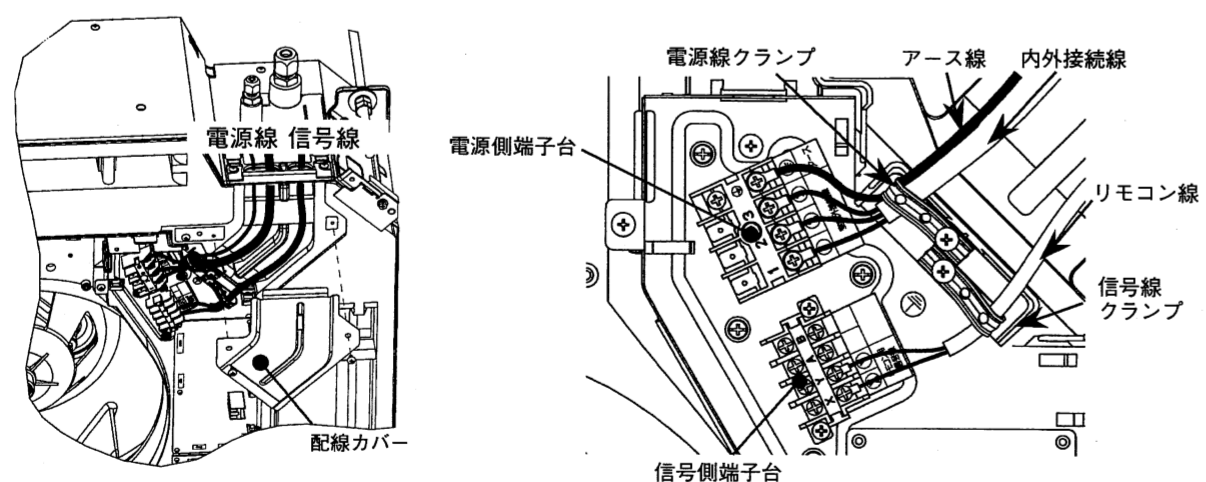
### ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合  
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。  
運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。
- 電気配線工事が完了していない場合  
室内ユニット基板上的SW7-1をONにし、かつ、基板上的コネクタCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。  
排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上的コネクタCNBを差し込んでください。

## ⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」(内線規程)及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

- 制御箱の蓋(ねじ3個)を取外し、配線カバー(ねじ2個)を取外してください。
- 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
- 各配線をクランプで固定してください。
- 取外した部品を元通りに取付けてください。



## ⑧ パネルの取付

- パネルは、電気配線工事後に、ユニット本体に取付けてください。
- パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

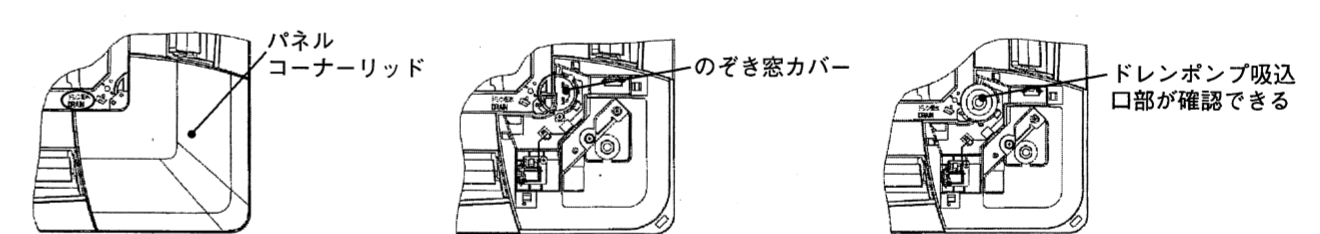
## ⑨ ユニット据付け工事完了後のチェック項目

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

## ⑩ ドレンパン汚れ確認(メンテナンス)

### ドレンパン汚れ確認方法

- パネルを取外さず、ドレンポンプ吸込口部のドレンパンの汚れを確認できます。(高性能フィルタなどオプションスペース取り付け時は確認できません。)
- パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナーリッドを取外してください。
  - パネルコーナーにあるのぞき窓カバー(ねじ1箇所)を取外してください。
  - のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。
  - 汚れが多い場合は、ドレンパンを取外し、ドレンパンを清掃してください。



### ドレンパン取外し時の注意事項

- ドレンパンには仮止め機構がついています。ドレンパン取外し時、および取付け時には注意願います。ドレンパン取付ねじ(4個)取外し後、仮止めフックを外してください。ドレンパン取付時は、仮止めフックを取付け後、確実にねじで固定してください。

